

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月11日
【四半期会計期間】	第8期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	大陽日酸株式会社
【英訳名】	TAIYO NIPPON SANSO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 川口 恭史
【本店の所在の場所】	東京都品川区小山一丁目3番26号
【電話番号】	(03)5788-8060
【事務連絡者氏名】	常務執行役員 管理本部副本部長 水之江 欣志
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区小山一丁目3番26号
【電話番号】	(03)5788-8060
【事務連絡者氏名】	常務執行役員 管理本部副本部長 水之江 欣志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第7期 第2四半期連結 累計期間	第8期 第2四半期連結 累計期間	第7期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(百万円)	237,306	234,799	483,620
経常利益(百万円)	17,836	16,005	34,167
四半期(当期)純利益(百万円)	10,222	8,414	12,736
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,623	5,192	449
純資産額(百万円)	212,086	208,090	207,416
総資産額(百万円)	621,106	584,428	617,676
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	25.57	21.13	31.86
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	31.8	33.0	31.2
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	15,538	14,693	65,897
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	21,145	15,488	44,834
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	7,901	19,839	3,343
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	28,005	23,451	43,877

回次	第7期 第2四半期連結 会計期間	第8期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	12.41	12.82

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう、以下同じ。)は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第7期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は大陽日酸(株)及び子会社160社、関連会社123社、その他の関係会社である(株)三菱ケミカルホールディングス及び三菱化学(株)により構成されており、主として酸素・窒素・アルゴン等各種工業ガス、LPガス、医療用ガス、特殊ガスの製造・販売及び溶断機器・材料、各種ガス関連機器、空気分離装置の製造・販売、電子部品の組立・加工・検査、設備メンテナンス並びにステンレス製魔法瓶等の製造・販売を営んでおります。

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）における世界経済は、米国経済の減速傾向継続、欧州の財政危機問題深刻化などに加えて、中国及び新興国市場でも経済成長がやや鈍化するなど、全般に景気後退懸念が強まりました。一方、わが国経済は、本年3月に発生した東日本大震災による被害からの復旧、復興を推進するなかで、電力供給問題、急激な円高による輸出減退、製造業の海外移転の加速など懸念すべき問題も多く、先行き不透明な状況で推移いたしております。

このような状況の下、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高2,347億99百万円（前年同期比1.1%減少）、営業利益157億74百万円（同12.5%減少）、経常利益160億5百万円（同10.3%減少）、四半期純利益84億14百万円（同17.7%減少）となりました。

尚、当期からスタートした3ヶ年新中期経営計画「Gear Up 10」～グローバル企業への挑戦～については、東日本大震災の影響を見極めた上で重点戦略への取組み、数値目標などを取りまとめ、計画の全容を平成23年11月10日に別途開示いたしました。

セグメント業績は、次のとおりであります。

産業ガス関連事業

主要関連業界である鉄鋼・化学産業等の需要は、大震災の影響による期初の急激な落ち込みから徐々に回復傾向を辿りましたものの、酸素・窒素・アルゴンの売上高は前年同期をやや下回りました。機器・装置については、溶断機器・材料は国内を中心に前年同期を上回りましたが、空気分離装置などの機械装置は、大型設備投資需要の減退に伴い売上高は前年同期を大幅に下回りました。海外においては、前期に北米で実施したM&Aによる業績への寄与もあり、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、産業ガス関連事業の売上高は1,446億8百万円（前年同期比1.1%増加）、営業利益は111億55百万円（同0.9%増加）となりました。

エレクトロニクス関連事業

エレクトロニクス産業は、大震災の影響や急激な円高もあり、半導体、液晶パネル等の主要メーカーの稼働率が低下しており、電子材料ガスの国内出荷は前年同期を下回りましたが、韓国、台湾、中国での堅調な需要に支えられ、電子材料ガスの売上高は前年同期をやや上回りました。一方、電子関連機器・工事は、設備投資需要の減退により、売上高は前年同期比で減少し、また半導体製造装置も韓国、台湾で受注実績を上げつつあるものの、主力の国内ユーザーの設備投資計画の見直し、先送りなどにより、売上高は大幅に減少いたしました。

以上の結果、エレクトロニクス関連事業の売上高は561億79百万円（前年同期比9.0%減少）、営業利益は31億46百万円（同39.7%減少）となりました。

エネルギー関連事業

LPGガスは、出荷数量は減少したものの、輸入価格は引き続き高水準で推移しており、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、エネルギー関連事業の売上高は177億48百万円（前年同期比6.3%増加）、営業利益は6億60百万円（同40.2%増加）となりました。

その他事業

メディカル関連事業では、大震災の被害に際しては、グループを挙げて医療ガスの供給を維持し安定供給に努めました。医療関連機器は、在宅を中心に好調に推移したことから、売上高は前年同期を上回りました。サーモス事業の売上高は、前年同期に比べ減少となりました。

以上の結果、その他事業の売上高は162億63百万円（前年同期比2.3%増加）、営業利益は15億5百万円（同27.9%減少）となりました。

（2）財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は5,844億28百万円で、前連結会計年度末比で332億47百万円の減少となっております。為替の影響については、USドルの期末日レートが前連結会計年度末に比べ76銭の円高となるなど、約5億円少なく表示されております。

〔資産の部〕

（流動資産）

当第2四半期連結会計期間末の流動資産の残高は1,963億1百万円で、前連結会計年度末比で、239億25百万円の減少となっております。現金及び預金が198億61百万円、受取手形及び売掛金が116億74百万円の減少となっております。

（固定資産）

当第2四半期連結会計期間末の固定資産の残高は3,881億27百万円で、前連結会計年度末比で、93億21百万円の減少となっております。有形固定資産が33億24百万円の減少、投資その他の資産が前連結会計年度末に比べ株価が下落したことによる上場株式の含み益の減少等により36億97百万円の減少となっております。

〔負債の部〕

（流動負債）

当第2四半期連結会計期間末の流動負債の残高は1,604億2百万円で、前連結会計年度末比で、201億24百万円の減少となっております。1年内償還予定の社債が償還などにより50億円の減少、短期借入金が24億20百万円の減少となっております。

（固定負債）

当第2四半期連結会計期間末の固定負債の残高は2,159億35百万円で、前連結会計年度末比で、137億96百万円の減少となっております。社債が1年内償還予定の社債へ振替られたことにより100億円の減少、長期借入金が10億63百万円の減少となっております。

〔純資産の部〕

利益剰余金は、59億91百万円の増加となっております。その他有価証券評価差額金は主に当社が保有する上場有価証券の含み益の減少により35億84百万円減少し28億44百万円となっております。

以上の結果、純資産の部の合計は2,080億90百万円となり、前連結会計年度末比6億73百万円の増加となっております。

なお、自己資本比率は33.0%と前連結会計年度末に比べ1.8ポイント高くなっております。

（3）キャッシュ・フローの分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動によるキャッシュ・フローが146億93百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが154億88百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが198億39百万円の支出となりました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の資金の期末残高は、234億51百万円（前年同四半期比45億54百万円の減少）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

税金等調整前四半期純利益、減価償却費、売掛債権・仕入債務の増減や法人税等の支出他により、営業活動によるキャッシュ・フローは146億93百万円の収入（前年同四半期は155億38百万円の収入）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

不動産などの有形固定資産の売却に伴う収入が45億25百万円の一方で、有形固定資産の取得による支出166億73百万円等により投資活動によるキャッシュ・フローは154億88百万円の支出（前年同四半期は211億45百万円の支出）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

社債の償還による支出が150億円、長期借入金の借入による収入が104億62百万円、長期借入金の返済による支出が162億86百万円等により財務活動によるキャッシュ・フローは198億39百万円の支出（前年同四半期は79億1百万円の収入）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループの対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題については重要な変更はありません。
なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配するものの在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

株式会社の支配に関する基本方針

- 1 当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の経営理念、企業価値を生み出す源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係などを十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を長期的に確保、向上させる者でなければならないことを基本原則といたします。

また、上場会社である当社の株式は、株式市場を通じて多数の株主、投資家の皆さまによる自由な取引が認められているものであり、仮に当社株式の大規模な買付行為や買付提案がなされた場合であっても、当該当社株式の大規模買付が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。

これら当社株式の大規模な買付等に応ずるか否かの最終判断は、株主の皆さまのご意思に基づいて行われるべきものと考えております。

しかしながら、当社株式の大規模な買付行為や買付提案の中には、その目的等からみて企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要する恐れがあるもの、当社の取締役会や株主が買付の条件について検討し、あるいは当社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、当社が買付者の提案した条件よりも有利な条件をもたらすために買付者との交渉を必要とするもの等のケースが想定されます。

当社は、上記のケースをはじめ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある株式の大規模な買付行為や買付提案を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると判断いたします。

- 2 基本方針の実現に資する取組み

当社では、多くの投資家の皆さまに長期的に継続して当社に投資していただくため、また、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるために、次の取組みを実施しております。

これらの取組みは、前記当社における会社の支配に関する基本方針の実現に資するものと考えております。

- 2 - 1 「中期経営計画」による企業価値向上への取組み

当社グループは、平成23年度から平成25年度までの3ケ年にわたる中期経営計画「Gear Up 10」～グローバル企業への挑戦～の目標達成に向けて取り組んでおります。

「Gear Up 10」では、グローバル・プレゼンスの拡大を図り、収益性と効率性を追求した持続的な成長を実現するために、前中期経営計画から引き続き中長期的に目標とする経営指標を「世界シェア10%」、「営業利益率10%以上」、「ROCE10%以上」のトリプル10の達成に置くとともに、前中期経営計画に掲げた「成長地域・成長市場への経営資源の集中、川上戦略の強化、M&A戦略の推進、コストダウンの実行、グループ経営の強化の重点戦略5項目を継承しつつ、()コンプライアンス、保安確保、品質管理の強化、()費用対効果、労力対効果を徹底的に追求した効率的な経営、()地域基盤の強化、()シリンドービジネスへの注力、()R&Dの強化、()積極投資の継続を基軸の考え方に据えて、中長期的な「企業価値の創造・向上」を図ってまいります。

- 2 - 2 コーポレート・ガバナンス（企業統治）の強化による企業価値向上への取組み

当社は、企業統治の強化によって常に効率的で健全な経営を行い、必要な施策を適宜実行することが、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の継続的な増大を図るための重要な課題であると認識し、()取締役会による重要な意思決定と職務の監督、()グループ全般を視野においた経営管理体制による意思決定の迅速化、()監査役による取締役の職務執行の監査、()社長直轄の監査室による内部監査の実施等の施策を逐次整備・強化してまいりました。

また、当社では、経営環境の変化に対応して最適な経営体制を機動的に構築するとともに、各事業年度における経営責任をより一層明確にするため、取締役の任期を1年と定め、株主の皆さまからの信任を受ける機会を増やしております。

当社は、前記の取組み等を通じて株主の皆さまをはじめ取引先や当社社員など当社のステークホルダーとの信頼関係をより強固なものにしながら、中長期的視野に立って企業価値の安定的な向上を目指してまいります。

- 2 - 3 買収防衛策の導入

当社は、前記基本方針に基づき、不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための方策として、平成20年3月25日開催の当社取締役会において、当社株式の大規模買付行為への対応策（以下

「買収防衛策」といいます。)の導入につき決議を行い、平成20年6月27日開催の第4回定時株主総会において、株主の皆さまのご承認をいただいて買収防衛策を導入しております。

買収防衛策の概要は、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株式等の買付行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株式等の買付行為(いずれについてもあらかじめ当社取締役会が同意したものを除き、また市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問いません。)が行われまたは行おうとされる場合に、当該行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するか否かを判断するため、当該行為者に対して情報提供を求め、検討期間を確保した上で必要な対応を実施するもので、()株式等の大規模買付行為に対する対応策(買収防衛策)に関する政府指針の要件を充足していること、()株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること、()株主意思を反映するものであること、()本防衛策発動のための合理的な客観的要件の設定、()デッドハンド型買収防衛策およびスローハンド型買収防衛策ではないこと、などの諸点を考慮し設計しておりますので、会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致するものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

なお、買収防衛策の有効期限は、平成20年6月27日開催の当社定時株主総会の終結の時から3年以内に終了する事業年度のうち最終の年度に関する定時株主総会の終結の時までとなっておりますので、平成23年6月29日開催の第7回定時株主総会において、「当社株式の大規模買付行為への対応策(買収防衛策)の更新」につきご承認を得ております。

主な変更点は以下のとおりです。

イ．大規模買付ルール(大規模買付時における情報提供と検討時間の確保等に関する一定のルール)を遵守したか否かを判断するにあたっては、当社取締役会が求めた必要情報の一部が提出されないことのみをもって、ルールを遵守しないとは認定しない旨を明記しました。

ロ．大規模買付ルールの迅速化を図る観点から、必要に応じ、大規模買付者に対しての情報提供の期限を設定することとし、大規模買付者から合理的な理由に基づく延長請求があった場合は、その期限を延長することができるものとしました。

ハ．当社取締役会が必要情報について追加的な提供を要請した場合、大規模買付者から当該情報の一部について提供が難しい旨の合理的な説明がある場合には、当社取締役会が求める情報が全て揃わなくても、情報提供に係る交渉を終了し取締役会の評価・検討を開始する場合がありますこととしました。

ニ．取締役会の評価・検討期間の上限を明確にしました。

ホ．大規模買付ルールを遵守した場合について、対抗措置の発動は、例示する類型に該当し、その結果として会社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合に限る旨を明記しました。

ヘ．その他、平成21年1月5日に施行された「株式等の取引に係る決済の合理化を図るための社債等の振替に関する法律等の一部を改正する法律」(平成16年法律第88号)による株券電子化が実施されるなどの関係法令の整備に伴う所要の修正、証券取引法が金融商品取引法に改正されたことに伴う所要の修正及び文言の整理などを行いました。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、17億円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,600,000,000
計	1,600,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	403,092,837	403,092,837	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
計	403,092,837	403,092,837	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	403,092	-	27,039	-	46,128

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
三菱化学株式会社	東京都港区芝4-14-1	60,947	15.12
JFEスチール株式会社	東京都千代田区内幸町2-2-3	25,254	6.27
大陽日酸取引先持株会	東京都品川区小山1-3-26	18,860	4.68
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	16,007	3.97
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1-3-3	14,484	3.59
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	11,696	2.90
全国共済農業協同組合連合会	東京都千代田区平河町2-7-9	10,881	2.70
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1-13-1	10,037	2.49
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町1-13-2	10,000	2.48
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	7,989	1.98
計	-	186,158	46.18

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数は、すべて信託業務に係るものであります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,712,000	-	単元株式数は1,000株で あります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 392,293,000	392,293	同上
単元未満株式	普通株式 4,087,837	-	1単元(1,000株)未満 の株式
発行済株式総数	403,092,837	-	-
総株主の議決権	-	392,293	-

(注) 1. 単元未満株式には、自己株式及び相互保有株式が下記のとおり含まれております。

自己株式923株、ニッキ株式会社259株、証券保管振替機構438株

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
大陽日酸(株)	東京都品川区小山1-3-26	6,053,000	-	6,053,000	1.50
幸栄運輸(株)	宮城県多賀城市宮内2-3-2	137,000	109,000	246,000	0.06
福興酸素(株)	広島県呉市広白岳3-1-52	28,000	99,000	127,000	0.03
宮崎酸素(株)	宮崎県宮崎市祇園2-140-1	40,000	70,000	110,000	0.03
ニッキ(株)	広島県呉市広多賀谷3-4-11	50,000	35,000	85,000	0.02
埼玉日酸(株)	埼玉県川口市青木3-5-1	-	35,000	35,000	0.01
岡安産業(株)	千葉県船橋市栄町1-6-20	29,000	4,000	33,000	0.01
仙台日酸(株)	宮城県多賀城市宮内2-3-2	-	23,000	23,000	0.01
計	-	6,337,000	375,000	6,712,000	1.67

(注) 「他人名義所有株式数」欄に記載しております株式の名義は全て「大陽日酸取引先持株会」(東京都品川区小山1-3-26)であり、同会名義の株式のうち、各社の持分残高の単元部分を記載しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	44,549	24,688
受取手形及び売掛金	126,207	114,532
商品及び製品	16,750	19,887
仕掛品	9,295	16,520
原材料及び貯蔵品	7,848	6,579
繰延税金資産	6,390	5,660
その他	9,873	9,037
貸倒引当金	689	605
流動資産合計	220,227	196,301
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	53,831	52,917
機械装置及び運搬具(純額)	113,748	124,205
土地	38,973	34,670
リース資産(純額)	6,616	4,321
建設仮勘定	22,014	15,405
その他(純額)	21,309	21,650
有形固定資産合計	256,494	253,170
無形固定資産		
のれん	43,343	42,260
その他	18,647	17,431
無形固定資産合計	61,990	59,691
投資その他の資産		
投資有価証券	53,569	49,312
長期貸付金	5,387	5,345
前払年金費用	11,427	11,100
繰延税金資産	2,221	2,264
その他	8,475	8,904
投資等評価引当金	1,277	807
貸倒引当金	839	854
投資その他の資産合計	78,963	75,265
固定資産合計	397,448	388,127
資産合計	617,676	584,428

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	66,896	65,149
短期借入金	49,002	46,582
コマーシャル・ペーパー	-	4,000
1年内償還予定の社債	15,000	10,000
未払法人税等	8,173	3,742
引当金	2,981	3,137
災害損失引当金	1,263	1,230
課徴金引当金	5,193	-
その他	32,016	26,560
流動負債合計	180,527	160,402
固定負債		
社債	25,000	15,000
長期借入金	157,398	156,335
繰延税金負債	27,740	25,246
退職給付引当金	3,787	3,727
執行役員退職慰労引当金	439	477
役員退職慰労引当金	777	729
負ののれん	757	521
リース債務	6,563	5,967
その他	7,268	7,930
固定負債合計	229,732	215,935
負債合計	410,259	376,338
純資産の部		
株主資本		
資本金	27,039	27,039
資本剰余金	44,910	44,910
利益剰余金	150,439	156,431
自己株式	2,321	4,120
株主資本合計	220,068	224,260
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,428	2,844
繰延ヘッジ損益	163	235
為替換算調整勘定	33,621	33,677
在外子会社の年金債務調整額	140	139
その他の包括利益累計額合計	27,496	31,208
少数株主持分	14,845	15,038
純資産合計	207,416	208,090
負債純資産合計	617,676	584,428

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【 四半期連結損益計算書】

【 第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
売上高	237,306	234,799
売上原価	157,611	156,076
売上総利益	79,694	78,723
販売費及び一般管理費	61,657	62,949
営業利益	18,037	15,774
営業外収益		
受取利息	91	105
受取配当金	499	493
負ののれん償却額	372	295
持分法による投資利益	884	768
その他	997	1,463
営業外収益合計	2,845	3,124
営業外費用		
支払利息	2,403	2,295
固定資産除却損	163	99
その他	479	497
営業外費用合計	3,046	2,893
経常利益	17,836	16,005
特別利益		
固定資産売却益	57	3,199
特別利益合計	57	3,199
特別損失		
固定資産売却損	-	4,623
投資有価証券評価損	79	5
ゴルフ会員権評価損	4	15
災害による損失	-	431
特別損失合計	84	5,075
税金等調整前四半期純利益	17,810	14,129
法人税、住民税及び事業税	6,627	4,317
法人税等調整額	270	905
法人税等合計	6,897	5,222
少数株主損益調整前四半期純利益	10,912	8,906
少数株主利益	690	492
四半期純利益	10,222	8,414

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	10,912	8,906
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,209	3,569
繰延ヘッジ損益	138	72
為替換算調整勘定	3,656	10
在外子会社の年金債務調整額	4	1
持分法適用会社に対する持分相当額	289	83
その他の包括利益合計	9,289	3,714
四半期包括利益	1,623	5,192
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	921	4,702
少数株主に係る四半期包括利益	702	489

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	17,810	14,129
減価償却費	15,443	14,361
のれん償却額	1,712	1,244
受取利息及び受取配当金	590	598
支払利息	2,403	2,295
持分法による投資損益(は益)	884	768
有形固定資産売却損益(は益)	85	1,475
災害損失	-	431
売上債権の増減額(は増加)	3,019	11,847
未収入金の増減額(は増加)	248	515
前渡金の増減額(は増加)	324	708
たな卸資産の増減額(は増加)	2,129	9,417
仕入債務の増減額(は減少)	4,261	1,905
未払費用の増減額(は減少)	336	3,540
前受金の増減額(は減少)	320	664
退職給付引当金の増減額(は減少)	32	60
前払年金費用の増減額(は増加)	113	326
その他	2,280	1,407
小計	24,058	29,271
利息及び配当金の受取額	916	1,129
利息の支払額	2,390	2,298
課徴金の支払額	-	5,144
法人税等の支払額	7,045	8,264
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,538	14,693
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	479	1,170
定期預金の払戻による収入	262	575
有形固定資産の取得による支出	9,838	16,673
有形固定資産の売却による収入	287	4,525
無形固定資産の取得による支出	293	69
投資有価証券の取得による支出	1,303	1,944
投資有価証券の売却による収入	390	19
資産買収による支出	-	1,013
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	10,672	-
貸付けによる支出	4	15
その他	506	277
投資活動によるキャッシュ・フロー	21,145	15,488

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	8,042	2,423
コマーシャル・ペーパーの増減額（は減少）	-	4,000
長期借入れによる収入	26,436	10,462
長期借入金の返済による支出	23,122	16,286
社債の償還による支出	-	15,000
リース債務の返済による支出	769	1,040
自己株式の取得による支出	15	1,805
自己株式の売却による収入	0	2
配当金の支払額	2,399	2,399
少数株主への配当金の支払額	271	196
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,901	19,839
現金及び現金同等物に係る換算差額		
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	215	119
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,509	20,516
現金及び現金同等物の期首残高	23,723	43,877
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,343	-
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	429	90
現金及び現金同等物の四半期末残高	28,005	23,451

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(1) 持分法適用の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、Thermos International Trading Limitedは新たに設立したため、持分法適用の範囲に含めております。 当第2四半期連結会計期間より、Zenithtec Co., Ltd.は株式を取得したため、持分法適用の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(重要な減価償却資産の減価償却方法の変更) 当社は、有形固定資産のうち、賃貸用の機械及び装置並びに平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)以外についての減価償却の方法は定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より、定額法に変更いたしました。 新中期経営計画では、エレクトロニクス産業など成長市場への経営資源の集中を進め、設備投資を行っていく一方、これまで定率法を採用していた主な有形固定資産である中小規模のガス供給設備については、新規顧客向けの投資が縮小傾向にある中、既存顧客のガス需要は堅調に推移することを見込んでおり、取替・更新への投資を中心とし、使用期間にわたって長期安定的に稼働することとなります。したがって、定額法による費用配分に基づく期間損益計算がより合理的であると判断いたしました。 これにより、売上原価および販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費が9億93百万円減少し、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ同額増加しております。 なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)																												
<p>1. 偶発債務</p> <p>連結会社以外の下記会社に対して銀行借入等の債務保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">八幡共同液酸㈱</td> <td style="text-align: right;">1,680 百万円</td> </tr> <tr> <td>国際炭酸㈱</td> <td style="text-align: right;">1,523 "</td> </tr> <tr> <td>SKC airgas, Inc.</td> <td style="text-align: right;">584 "</td> </tr> <tr> <td>サーン日炭㈱</td> <td style="text-align: right;">388 "</td> </tr> <tr> <td>秋田液酸工業㈱</td> <td style="text-align: right;">348 "</td> </tr> <tr> <td>その他20社</td> <td style="text-align: right;">2,162 "</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,686 "</td> </tr> </table> <p>上記金額には、共同出資者による再保証458百万円が含まれております。</p> <p>また、上記金額には、保証予約等279百万円が含まれております。</p>	八幡共同液酸㈱	1,680 百万円	国際炭酸㈱	1,523 "	SKC airgas, Inc.	584 "	サーン日炭㈱	388 "	秋田液酸工業㈱	348 "	その他20社	2,162 "		6,686 "	<p>1. 偶発債務</p> <p>連結会社以外の下記会社に対して銀行借入等の債務保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">八幡共同液酸㈱</td> <td style="text-align: right;">1,530 百万円</td> </tr> <tr> <td>国際炭酸㈱</td> <td style="text-align: right;">1,383 "</td> </tr> <tr> <td>大陽日酸シランガスサービス㈱</td> <td style="text-align: right;">1,004 "</td> </tr> <tr> <td>SKC airgas, Inc.</td> <td style="text-align: right;">442 "</td> </tr> <tr> <td>サーン日炭㈱</td> <td style="text-align: right;">344 "</td> </tr> <tr> <td>その他14社</td> <td style="text-align: right;">1,932 "</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,636 "</td> </tr> </table> <p>上記金額には、共同出資者による再保証414百万円が含まれております。</p> <p>また、上記金額には、保証予約等255百万円が含まれております。</p>	八幡共同液酸㈱	1,530 百万円	国際炭酸㈱	1,383 "	大陽日酸シランガスサービス㈱	1,004 "	SKC airgas, Inc.	442 "	サーン日炭㈱	344 "	その他14社	1,932 "		6,636 "
八幡共同液酸㈱	1,680 百万円																												
国際炭酸㈱	1,523 "																												
SKC airgas, Inc.	584 "																												
サーン日炭㈱	388 "																												
秋田液酸工業㈱	348 "																												
その他20社	2,162 "																												
	6,686 "																												
八幡共同液酸㈱	1,530 百万円																												
国際炭酸㈱	1,383 "																												
大陽日酸シランガスサービス㈱	1,004 "																												
SKC airgas, Inc.	442 "																												
サーン日炭㈱	344 "																												
その他14社	1,932 "																												
	6,636 "																												
<p>2. 売掛金の債権流動化による譲渡高 4,074百万円</p> <p>受取手形の債権流動化による譲渡高 1,399百万円</p>	<p>2. 売掛金の債権流動化による譲渡高 6,036百万円</p> <p>受取手形の債権流動化による譲渡高 3,974百万円</p>																												
<p>3. 受取手形割引高 70百万円</p>	<p>3. 受取手形割引高 30百万円</p>																												

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)																																								
<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">販売運賃荷造費</td> <td style="text-align: right;">12,054 百万円</td> </tr> <tr> <td>工事補償引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">55 "</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">6,931 "</td> </tr> <tr> <td>給料手当等</td> <td style="text-align: right;">21,055 "</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">389 "</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">1,244 "</td> </tr> <tr> <td>執行役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">77 "</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">63 "</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">94 "</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">1,681 "</td> </tr> </table>	販売運賃荷造費	12,054 百万円	工事補償引当金繰入額	55 "	減価償却費	6,931 "	給料手当等	21,055 "	賞与引当金繰入額	389 "	退職給付費用	1,244 "	執行役員退職慰労引当金繰入額	77 "	役員退職慰労引当金繰入額	63 "	貸倒引当金繰入額	94 "	研究開発費	1,681 "	<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">販売運賃荷造費</td> <td style="text-align: right;">12,399 百万円</td> </tr> <tr> <td>工事補償引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">238 "</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">5,866 "</td> </tr> <tr> <td>給料手当等</td> <td style="text-align: right;">21,882 "</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">480 "</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">1,732 "</td> </tr> <tr> <td>執行役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">78 "</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">61 "</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">39 "</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">1,700 "</td> </tr> </table>	販売運賃荷造費	12,399 百万円	工事補償引当金繰入額	238 "	減価償却費	5,866 "	給料手当等	21,882 "	賞与引当金繰入額	480 "	退職給付費用	1,732 "	執行役員退職慰労引当金繰入額	78 "	役員退職慰労引当金繰入額	61 "	貸倒引当金繰入額	39 "	研究開発費	1,700 "
販売運賃荷造費	12,054 百万円																																								
工事補償引当金繰入額	55 "																																								
減価償却費	6,931 "																																								
給料手当等	21,055 "																																								
賞与引当金繰入額	389 "																																								
退職給付費用	1,244 "																																								
執行役員退職慰労引当金繰入額	77 "																																								
役員退職慰労引当金繰入額	63 "																																								
貸倒引当金繰入額	94 "																																								
研究開発費	1,681 "																																								
販売運賃荷造費	12,399 百万円																																								
工事補償引当金繰入額	238 "																																								
減価償却費	5,866 "																																								
給料手当等	21,882 "																																								
賞与引当金繰入額	480 "																																								
退職給付費用	1,732 "																																								
執行役員退職慰労引当金繰入額	78 "																																								
役員退職慰労引当金繰入額	61 "																																								
貸倒引当金繰入額	39 "																																								
研究開発費	1,700 "																																								

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在)
現金及び預金勘定 28,848 百万円	現金及び預金勘定 24,688 百万円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金 842 "	預入期間が3ヵ月を超える定期預金 1,237 "
現金及び現金同等物 28,005 "	現金及び現金同等物 23,451 "

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	2,399	6	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効
力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年11月10日 取締役会	普通株式	2,399	6	平成22年9月30日	平成22年12月1日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	2,399	6	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効
力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月10日 取締役会	普通株式	2,382	6	平成23年9月30日	平成23年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	産業ガス 関連事業	エレクトロニ クス関連事業	エネルギー 関連事業	その他事業 (注)1	計		
売上高							
外部顧客に対する売上高	142,964	61,751	16,698	15,890	237,306	-	237,306
セグメント間の内部売上高又は振替高	905	38	970	1,439	3,354	(3,354)	-
計	143,870	61,789	17,669	17,330	240,660	(3,354)	237,306
セグメント利益 (営業利益)	11,054	5,217	471	2,088	18,831	(794)	18,037

(注)1. その他事業には、メディカル関連事業、サーモス事業、不動産事業等を含めております。

2. セグメント利益の調整額 794百万円には、セグメント間取引消去 186百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 607百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに配分していない基礎研究費用等です。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	産業ガス 関連事業	エレクトロニ クス関連事業	エネルギー 関連事業	その他事業 (注)1	計		
売上高							
外部顧客に対する売上高	144,608	56,179	17,748	16,263	234,799	-	234,799
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,216	41	1,437	1,348	4,042	(4,042)	-
計	145,824	56,220	19,185	17,612	238,842	(4,042)	234,799
セグメント利益 (営業利益)	11,155	3,146	660	1,505	16,467	(693)	15,774

(注)1. その他事業には、メディカル関連事業、サーモス事業、不動産事業等を含めております。

2. セグメント利益の調整額 693百万円には、セグメント間取引消去 127百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 565百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに配分していない基礎研究費用等です。

3. (重要な減価償却資産の減価償却方法の変更)

当社は、有形固定資産のうち、賃貸用の機械及び装置並びに平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)以外についての減価償却の方法は定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、定額法に変更いたしました。

新中期経営計画では、エレクトロニクス産業など成長市場への経営資源の集中を進め、設備投資を行っていく一方、これまで定率法を採用していた主な有形固定資産である中小規模のガス供給設備については、新規顧客向けの投資が縮小傾向にある中、既存顧客のガス需要は堅調に推移することを見込んでおり、取替・更新への投資を中心とし、使用期間にわたって長期安定的に稼働することとなります。したがって、定額法による費用配分に基づく期間損益計算がより合理的であると判断いたしました。

これにより、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益は、「産業ガス関連事業」が502百万円、「エレクトロニクス関連事業」が371百万円、「エネルギー関連事業」が15百万円、「その他事業」が54百万円、「調整額」が47百万円増加しております。

(金融商品関係)

前連結会計年度末(平成23年3月31日)

科目	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	44,549	44,549	-
(2) 受取手形及び売掛金	126,207	126,207	-
資産計	170,757	170,757	-
社債	40,000	40,467	467
負債計	40,000	40,467	467

(注) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預金並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

負債

社債

当社グループの発行する社債の時価は市場価格のあるものは市場価格に基づき、算定しております。

当第2四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)

以下の科目は、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

科目	四半期連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	24,688	24,688	-
(2) 受取手形及び売掛金	114,532	114,532	-
資産計	139,221	139,221	-
社債	25,000	25,400	400
負債計	25,000	25,400	400

(注) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預金並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

負債

社債

当社グループの発行する社債の時価は市場価格のあるものは市場価格に基づき、算定しております。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は注記の対象から除いているため、該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	25円57銭	21円13銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	10,222	8,414
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	10,222	8,414
普通株式の期中平均株式数 (千株)	399,812	398,132

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当第 2 四半期連結会計期間 (自 平成23年 7 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
<p>1 . S D S 事業 / V A C 事業の譲渡について</p> <p>(1) その旨及び理由</p> <p>当社は、米国100%子会社であるMatheson Tri-Gas, Inc. (以下 M T G) を通じて、イオンインプラプロセス用ガスである S D S (Safe Delivery Source) 及び V A C (Vacuum Actuated Cylinder) のライセンス契約を Advanced Technology Materials, Inc. (以下 A T M I 社) と締結し、当社グループが全世界での独占的な販売を行ってまいりましたが、今般、日本市場を除く当該事業を A T M I 社へ譲渡の合意に至りました。</p> <p>今回の事業譲渡と並行し、当社グループといたしましては、半導体並びに太陽電池向け材料ガスの開発など、引き続きエレクトロニクス関連事業への注力を行ってまいります。</p> <p>(2) 譲渡する相手会社の名称</p> <p>Advanced Technology Materials, Inc.</p> <p>(3) 譲渡する事業</p> <p>日本市場を除く S D S 事業 / V A C 事業</p> <p>今後の S D S 事業 / V A C 事業については、以下の通りです。</p> <p>日本での販売事業</p> <p>当社と A T M I 社は、新たに日本での契約を締結し、従来通り当社による販売を継続いたします。</p> <p>日本以外での販売事業</p> <p>移行期間を経て、A T M I 社へ引き継がれます。移行期間中にスムーズな移行が行われるよう M T G 及び当社グループ会社が顧客対応などのサポートを行います。</p> <p>製品製造</p> <p>従来通り A T M I 社と M T G にて製造が行われます。また、日本国内の製造体制も変更ありません。</p> <p>(4) 譲渡の時期</p> <p>平成23年10月31日</p> <p>(5) 譲渡価額</p> <p>譲渡価額は95百万米ドルとなります。本件事業譲渡に伴い、譲渡益が計上される予定ですが、金額につきましては現在精査中であります。</p>

当第2四半期連結会計期間
 (自平成23年7月1日
 至平成23年9月30日)

2. Leeden Limited 株式の公開買付について

当社は、平成23年11月7日開催の取締役会において、当社の100%子会社であるTaiyo Nippon Sanso Singapore Pte Ltd (以下「公開買付者」)を通じて、シンガポール証券取引所上場企業であるLeeden Limited (以下「Leeden社」)に対して、同社の上場廃止を前提に、全株式を対象とした公開買付け(以下「本公開買付け」)を実施することを決議いたしました。なお、当社は、シンガポール法人で100%子会社のNational Oxygen Pte Ltd (以下「NOX社」)を通じて、Leeden社株式 9,055,000株(発行済株式総数の5.0%)を既に所有しております。

(1) 本公開買付けの目的等

買付け等の目的

当社は本公開買付けにより、今後益々経済発展が期待される東南アジア地域での工業ガス並びに工業ガス付帯事業の拡大を目指します。

当社は、東南アジア地域において主に工業ガスを中心に事業展開しておりますが、その顧客層とLeeden社の溶接関連器具ならびに安全具事業の顧客層には重なりがあり、Leeden社を当社の子会社とすることで、両社販売網の相互活用および補完関係の構築により、両社の事業成長に大きく寄与するものと考えます。

Leeden社は50年余りの歴史があり、溶接関連器具を中心とした機器ビジネスと、NOX社との合弁事業である工業ガスの下流ビジネス(パッケージガスの製造、販売)を統合して展開することで事業の拡大を果たしてきましたが、当社との連携により、主要な事業地域であるシンガポール、マレーシア以外の、タイ、ベトナム、フィリピン等においても、同様に両社の連携、経営資源の相互活用により、当社グループとしての事業拡大が期待できます。

(2) 対象者の概要

名称	Leeden Limited
所在地	1 Shipyard Road, Singapore 628128
代表者の役職・氏名	会長兼CEO: Tham Weng Cheong Steven
事業内容	溶接関連器具、安全具、高圧ガスの製造ならびに仕入販売
資本金	54.6百万シンガポールドル
設立年月日	1964年5月18日

(3) 買付け等の概要

買付予定の株式の数 170,510,346株(普通株式)

1: 本公開買付けは、公開買付者がLeeden社の従業員ストックオプション(以下「オプション」)に係る潜在株式も含めた株式総数の50%超を保有するに足る応募があった場合に成立します。また、買付予定数の上限は設定しておりません。

2: 本公開買付けが終了する前に、オプションの行使により、新たにLeeden社の普通株式が発行される場合には、当該普通株式も公開買付けの対象とする予定です。なお、行使されないオプションについては、本公開買付けと同時に、公開買付者は、オプションの保有者がオプションの不行使に合意することを条件に、買付価格と行使価格の差額を支払う旨の申込みをします。

買付けの価額

普通株式1株につき0.57シンガポールドル

買付けの期間

シンガポール証券取引所から承認を経た後、本公開買付けの開始を予定しております。

買付けに要する資金(予定)

最大で85.3百万シンガポールドル

上場廃止

本公開買付けは、Leeden社の臨時株主総会において同社株式の上場廃止について株主の賛同が得られることが条件となります。

当第2四半期連結会計期間
 (自平成23年7月1日
 至平成23年9月30日)

公開買付者とLeeden社株主との間における合意に関する事項

本公開買付けにおいて、Leeden社の会長兼CEOのTham Weng Cheong Steven氏(以下「Tham氏」)が保有する44,645,000株(発行済株式総数の24.9%)、同じく社長兼COOのLee Chee Fatt氏(以下「Lee氏」)が保有する25,082,000株(発行済株式総数の14.0%、含む間接保有)について、本公開買付けに応募する旨の同意を得ております。但し、両者保有株式の半数を金銭決済とし、残り半数については、公開買付け価格と等価にて、公開買付者の株式と交換することが合意されております。なお、本公開買付け後もTham氏とLee氏は、現職にてLeeden社の経営に従事する予定です。また、NOX社が所有するLeeden社株式9,055,000株は、本日から本公開買付け開始までの間に、公開買付け価格と等価にて、公開買付者の株式と交換することが合意されております。

強制取得

本公開買付けでは、シンガポールの法制度で規定されている強制取得に関する一定の条件を満足した場合、同制度に基づき、公開買付者はLeeden社の全株式を取得するため強制取得にかかる権利を行使することを企図しております。

買付けによる所有株式数の異動

買付前所有株式数	0株
NOX社より譲り受ける株式数	9,055,000株
買付後所有株式数(予定)	179,565,346株(発行済株式総数の100%)

2【その他】

平成23年11月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額・・・2,382百万円

(ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・6円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・平成23年12月1日

(注) 平成23年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月11日

大陽日酸株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	梅村 一彦 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	池内 基明 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	丸山 高雄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大陽日酸株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大陽日酸株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

1. 会計方針の変更等に記載されているとおり、会社は、有形固定資産のうち、賃貸用の機械及び装置並びに平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）以外についての減価償却の方法は定率法を採用していたが、第1四半期連結会計期間より、定額法に変更している。
2. 重要な後発事象に関する注記1に記載されているとおり、会社は、米国100%子会社であるMatheson Tri-Gas, Inc.を通じて、平成23年10月31日付で、日本市場を除くSDS事業及びVAC事業をAdvanced Technology Materials, Inc.に譲渡することで合意した。
3. 重要な後発事象に関する注記2に記載されているとおり、会社は、平成23年11月7日開催の取締役会において、100%子会社であるTaiyo Nippon Sanso Singapore Pte Ltdを通じて、シンガポール証券取引所上場企業であるLeeden Limitedに対して、全株式を対象とした公開買付けを実施することを決議した。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。